様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：２３９０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０３３２４

研究課題名（和文）冷戦期の米欧安全保障政策とキリスト教イデオロギーー安全保障政策と宗教の関係性ー

研究課題名（英文）European-US security policies and Christian ideology during the Cold War

研究代表者
松本　佐保（Matsumoto, Saho）

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授

研究者番号：４０３２６１６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：　冷戦期における欧州と米国の安全保障政策にとって重要な役割を果たしたCSCE（欧州安全保障協力会議）について、主に１９７３年のヘルシンキ会談へのバチカンの参加を通じて「人間の安全保障」の議論にどう関与したかを明らかにした。東欧やソ連で弾圧されていた宗教や信仰の自由をめぐって、バチカンは１９５０年代の終わりから特にハンガリー、ポーランド、チェコそしてユーゴスラビアと交渉していることから、これらの諸国と二国間ではなく多国間交渉をヘルシンキ会談以降実現したことになる。
　宗教という従来安全保障の概念から除外されていた問題について、人権や言論の自由という議論に信仰の自由を位置づけた研究である。

研究成果の概要（英文）：　The role of the Conference of Security and Cooperation in Europe and America (US and Canada) during the cold war was an important tool for communication between the West and the East, and the Holy See (Vatican) had participated for the Helsinki Conference in 1973. It was vital for the beginning of the debates on human rights and freedom of speech. As the Vatican had been negotiating with the Eastern European countries such as Hungary, Poland, Czechoslovakia and Yugoslavia (Catholic countries), Holy See could played an essential role for the Helsinki Conference for an argument of freedom of religion. Religious organization such as the Vatican (Holy See) never be seriously examined for security policy of Europa and America and thus this research project is an original contribution for the study of European security policies during the Cold War.

研究分野：国際政治

キーワード：米欧安全保障　冷戦　イデオロギー　宗教　安全保障政策

１．研究開始当初の背景

冷戦後の宗教・民族紛争研究、特に ９・１１以降については宗教が取り上げられるが、冷戦時代における宗教と安全保障の関係についてはあまり明かにされていない。冷戦研究では、軍事・安全保障についてはリアリスト的アプローチと宗教などのソフト・ ワパーについての研究は別々に議論されてきた。申請者は昨年度までの科学研究費で冷戦時代の西側のイデオロギーを支えた反共産主義の理念であるカトリックの中枢のバチカンの国際政治への影響力を明らかにした。その中で冷戦時代アメリカと西ヨーロッパ諸国の関係を理解する上で、カトリックを含むキリスト教を基軸にしたイデオロギーが安全保障政策と不可分に関わっているのではないかと着想を得て、NATO や、欧州安全保障協力会議（CSCE）におけるキリスト教のイデオロギーを考察する。

２．研究の目的

「冷戦期の米欧安全保障政策とキリスト教イデオロギー」について、以前の研究でバチカンを頂点とする カトリック教会の冷戦時代における役割についてイタリアのキリスト民主党の役割を明らかにしたが、今回はプロテスタントも含むドイツのキリスト教民主同盟に関わって、欧州の安全保障政策について明らかにすると共にアメリカの関与について調査を行う。冷戦時代の西側諸国の重要な軍事同盟 であった NATO よりも、東側諸国も参加した欧州安全保障協力会議（CSCE）において、宗教的なイデオロギーや言論や信仰の自由という人間の安全保障の問題に焦点を当てることを目的とする。

３．研究の方法

バチカンや英国の公文書館、米国の公文書館での史料調査に加えて、ジュネーブの国際機関の史料調査 を行った。国連や赤十字だけでなく、国際労働機関での調査が予想以上に大きな収穫があった。公開されている史料が英国や米国、バチカンでは３０年ルールがあるために、冷戦終結後の史料を見ることを制限されているのに対して、国際労働機関の文書館では冷戦終焉やその後の史料の閲覧が許されており、こうした国際機構とバチカンなどの宗教的な組織との関わり、また英米さらにソ連などの主 要国との関わりを明らかにするのに不可欠な史料を入手することが出来たからである。またアメリカではレーガン時代の軍事・安全保障政策とキリスト教ロビーの関係性をさぐるために、カルフォルニア州の シミ・バレーのレーガン大統領図書館付属のレーガン・ペーパーを所蔵する文書館で、レーガン大統領選出にあたって動員されたキリスト教票、キリスト教ロビーについて詳細な調査をおこなった。これによるとプロテスタントの主流派だけでなく特に福音派の台頭に伴って彼らの票が動員されたことがわかり、さらにアメリカでは少数派であったカトリックが 70 年代後半から共和党と民主党支持に真っ二つに分かれ、保守化したカトリック・ロビーが共和党レーガンに投票し、大統領就任後も彼のタカ派的な安全保障政策を支持したことが明らかになった。以上の様な歴史的な一次史料の調査によって、欧州でもアメリカでもカトリックと共にプロテスタントのキリスト教ロビーが、反共産主義の理念を共有し対ソ連の軍事・安全保障政策を基本的に支持する立場であったことが明らかになった。勿論一部のリベラルなキリスト教団体が反戦運動 や反核運動に関与したことも事実ではあるが、米欧外交関係に見られる安全保障政策全般という意味では、ソ連や東側の共産主義勢力 に対しての強硬な政策を支持していた。そしてこれら一次史料を発掘し分析して学会や研究会で発表を行い、フィードバックを得てより高い水準の研究成果を出すという方法を取った。

４．研究成果

本研究課題はバチカンの様な宗教的な組織が冷戦時代の安全保障の問題にどう関与したかを明らかにするものである。英国の諸大学で開催された British International History Group 学会で、またポルトガルのリスボン大学で行われた国際会議で、また国内の諸研究会で成果報告を行った。そのため科学研究費の用途は主に国内及び国外の旅費として使用した。これら学会や研究会で成果報告を行った具体的な内容とは、冷戦期におけるバチカンの国際政治における役割は単に反共産主義であっただけでなく、欧州安全保障協力会議（CSCE）が形成されるに至った１９７５年のヘルシキン会談への参加を通じての東欧の共産主義国との対話に貢献した。１９７５年のヘルシンキで 行われた、欧州安全保障協力会議の元々の起源は、教皇ヨハネ２３世の影響のもとで発案され、キューバ・ミサイル危機に介入したバチカンは、安全保障の問題 にも関与した。第二バチカン公会議閉会式の１９６５年に国連に加盟し、また欧州諸国の経済的協力の強化、文化交流、共同の技術開発、人権裁判などが教皇パウロ６世によって提唱され、その後実行に移されたのである。こうして１９７５年7月～８月、欧州の東西両側と中立国の３３か国、それと米国とカナダを入れて３５か国の首脳がヘルシンキに集まった。そして「デタントから安定へ、そして恒久的平和」を目指したが、バチカンはとくに、人権及び思想、良心、宗教、信条の自由を含む基本的自由の尊重について、東西が一致するように働きかけた。また国際法によって、他国において人権が著しく侵害される場合、第三国が介入（防

衛・防御）出来るという取り決めが出来た。従来あまり議論されていない宗教と安全保障の関係性について、本研究では明らかにすることが出来た。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　５　件）

① 松本佐保「イタリアの戦後処理―半世紀も封印された戦争犯罪の記憶」『外交』査読有、Vol.29、２０１５年1月号、４２～４７頁

② 松本佐保「冷戦期における米国の対イタリア戦略戦（Political Warfare）」『研究論集』査読有、第１２集２０１５年５月、１１５～１３０頁

③ 松本佐保　書評論文：廣部泉著『人種戦争という寓話―黄禍論とアジア主義―』（名古屋大学出版会、２０１７年）『東京財団メルマガ』２０１７年６月

④ 松本佐保　書評論文：伊藤武著『イタリア現代史―第二次世界大戦からベルルスコーニまでー』（中公新書、２０１６年）『東京財団メルマガ』２０１６年１０月

⑤ 松本佐保　書評論文：西川賢著『分極化するアメリカとその起源―共和党中道路線の盛衰』（千倉書房、２０１５年）『東京財団メルマガ』２０１６年４月

〔学会発表〕（計　６　件）

① 松本佐保「アメリカ宗教保守と移民問題」多文化共生デモクラシーの社会基盤計画・第１回研究会、東京大学、２０１７年１２月２日

② Saho Matsumoto, ‘Christian missionaries in Meiji Japan and unequal treaties with the West’, European Associations of Japanese Studies, リスボン大学、２０１７年９月(英語)

③ 松本佐保「バチカンの連盟と国連への関与」（国連コロキアム・明治学院大学、２０１７年7月９日

④ 松本佐保「大統領選挙と宗教票―歴史的考察を踏まえてー」アメリカ政治外交 II 分科会・国際政治学会、幕張メッセ国際会議場、２０１６年１０月１６日

⑤ Saho Matsumoto, United States’ Secretary of State, inter-religious dialogue to counter Muslim terrorism, 2013-2016, Annual Conference of the British International History Group, University of Edinburgh、英国国際関係史学会、エジンバラ大学、２０16年９月、

⑥ 松本佐保「冷戦期バチカンにおける国際政治における役割」冷戦研究会、東京大学駒場キャンパス、２０１６年2月

〔図書〕（計　３　件）

① 大賀哲・中野涼子・松本佐保編著『国際規範の競合と調和』（法律文化社、２０１８年刊行予定）

② 松本佐保著『バチカンと国際政治―トランスナショナルな組織から考える』（千倉書房、２０１８年年刊行予定）

③ 松本佐保著『熱狂する「神の国」アメリカ』（文春新書、２０１６年）合計２７１頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

https://synodos.jp/international/21005

https://synodos.jp/newbook/19148

http://webronza.asahi.com/politics/articles/2017112700013.html

６．研究組織
(1)研究代表者
松本佐保（Matsumoto, Saho）
名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授
研究者番号：40326161

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）